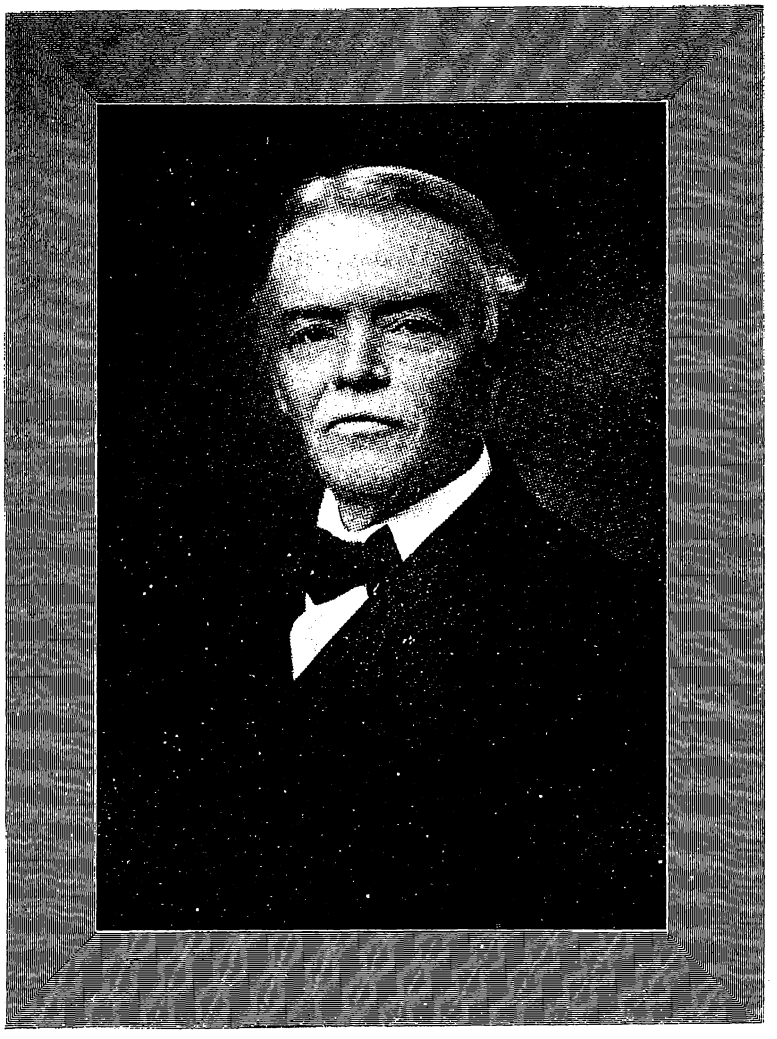
ジョサイア・ロイス肖像



（「學界近況」參照）

學界近況

ロイスの訃

最近米國ハーバート大學教授ジョサイア、ロイス(Josiah Royce)が逝去したと言ふ報知に接した。氏は昨年の十一月滿六十歳に達し其の祝賀會が翌月の二十八日から三十日迄の三日間ペンシルバニア大學で催された亞米利加哲學協會の大會を機として同時に行はれたと言ふ事は近著の米國雜誌に依つて知り、其の大體の模樣を後節の如く記して於いたが之れが未だ印刷に附せられぬうちに此度は同氏の訃音に接し同一誌面に其の訃を傳へねばならぬ樣になつたのは甚だ痛ましい感じがする。氏が十二月二十九日、フィラデルフィアのワルトンホテルで催された祝賀會席上に於て爲した挨拶の大要は The Philosophical Review Vol. XXV. 3. May, 1916. に載つて居るが殆ど氏の自叙傳とも言ふべきものであるから大體其れに依つて逝ける哲學者の面影を忍びたいと思ふ。

氏は一八五五年にカリフォルニアのシエラ・ネバダ(Sierra Nevada)山脈中に在る一つの鑛山町に呱々の聲をあげた。此の町は氏の誕生前僅か五六年位に開けた所ではあるが其の近邊には以前の鑛夫の採掘した穴の跡が散見されたり、古い朽ち果てた松の丸太棒などがころがつて居たり、鑛夫の墓が氏の家から程遠からぬ場所に見出されたりした事などから、鑛山事業は、人が其處に住み始めた最初から行はれて居たのだと言ふ感じを氏に起さした。それで先輩達が『此の町は新しい町だ』と言ふのを聞いて、子供心にも、其れは果してどう言ふ意味だらうか。何にが新たらしいと呼ばるべきものだらうかと言ふ事についてしば〳〵疑ひを起したと言ふ。そして次第に此の疑問を解決する事が自分の生涯の仕事の一部分であると感ずる

樣になつたと言ふ事である。氏に始めて哲學を敎へて呉れたのは、其頃家で私塾を開いて居つた母とそれから氏の姉達とであつた。姉の一人は亦氏に讀方を敎へた。家では屢聖書が讀まれた。母から聖書の話を讀んで聞かせられるのは喜ぶ所であつたが。日曜日の儀式に出る事を强ひられるのは好む所ではなく屢々反抗さへした。氏が宗敎に關して自分で最初に讀んだのは居間の机の上に在つた新約全書の『默示錄』であつた。而し『默示錄』からは、はつきりした考を握らせられなかつた。それに反して自分より三つ年上のすぐの姉とよく議論をした事から、辯證法の習練を受けた事が非常だつた。姉は姉で眞理を主張するし、氏は亦氏の意見を言ひ張る事に於て姉に讓らなかつた。而し姉が勘忍强いので烈しい喧嘩に陷る樣な事はなかつたが餘り兩者の論が哲學的になつて來た時は母が必ず、氏に一時間位ヂット落ちついてやる樣な仕事を命ずるのが常であつた。氏は非常に活潑な子供と言ふ方ではなく、むしろ臆病な子供ではあつたが一體に快活な性質だつた。南北戰爭の頃には戰況談をも人々から多く聞いたが、進んで戰爭の結果が果してどれ程であらうかと言ふ事を調べて見もしなかつたので戰爭に對しては、他の人生の諸問題に對すると同じ樣に漠然とした考へしか持つて居らなかつた。而し此の戰爭の終り頃、リンコルンの暗殺を耳にした時に氏の心に最初のそして力强い愛國心が芽を吹き出した、此の頃からして、氏の興味は國家と宗敎とに對して生じたと言ふ。氏の一家はやがて、サンフランシスコに移つた。始めて見た、サンフランシスコ灣や大洋は氏をして恍惚たらしめたが、永い間、氏に敎ゆる所は極めて少かつたと言ふ。一八六六年の六月頃、サンフランシスコの大きな、中學程度の或る學校に入り、三千の生徒の一人となつた。此の學

校の訓練の仕方は氏に新たらしく感ぜられた。氏の頭髪が赤かつた事や顏にそばかすがあつた事や、一體に田舍じみた風變りな樣子をして居た事や、諸種の團體遊戯に加はる能力がなかつた事などから、仲間からは不愉快な奴だとみられた。是等の學生に仲間入した當座はむしろ悲しい氣分に滿ちて居たが後では自分の利益であることが追追とわかつて來た。つまり、是等の學生の仲間に引き入れられたがために、始めて、所謂『社會の尊嚴』を感得し得たのであつた。一八七一年カリフォルニア大學に入り、一八七五年其處で氏は最初の學位を得た。カリフォルニア大學時代に受けた哲學的影響の主なものは、第一にはジョセフ、ルコント(Joseph Le Conte)教授の教へ。第二には卒業前二年の間、英語を教はつたエドワード、ローランド、シル(Edward Rowland Sill)教授の個人的感化、第三にはジョン、スチュアート、ミル(John Stuart Mill)やハーバート、スペンサー(Herbert Spencer)の書物から得た、文學的感化であつた。カリホルニア大學卒業後は獨逸に往つて學び後再び本國に歸つて、ジョンホプキンス大學に學び、一八七八年から一八八二年までは一時カリフォルニア大學に講師となり、かくて一八八二年からはハーバート大學に教授となつたのである。獨逸ではゲッチンゲン大學でロッツェ(Lotze)の講義を聞き暫くは其の影響を強く受けて居た。又ショーペンハウエルの書物から得た感化も頗る强かつた。カントの哲學には永い間非常なる注意を拂つて居た。而し一八九〇年以前は自分自身で、Hegel乃至Green, Caird兄弟等の感化を受けて居たとは考へなかつた。獨逸留學時代はロマンチック派の感化をうけて其の『詩の哲學』などは讀んで熱心に註釋などまでした程であつた。而し又早い頃から論理學に强い興味を有して居たので、長

い間、數學に關する明快な知識を得たいものだと希つて居た。

氏の回想に依れば氏の最思ひをひそめた問題は社會と言ふ觀念であつたと言ふ。勿論、此の事が明かに意識に上つて來た過程は漸進的ではあつたが、氏が未だ故郷に居る時分、姉達と前方のサクラメントー谷を越えた彼方の廣い世界について不審を抱いた時に、朧ろげながらも社會と言ふ觀念を意識する樣になつた。サンフランシスコの中等學校で始めて學生の仲間入をした時に感じたのも此の社會と言ふ觀念であつた。又、獨逸留學時代に理解しようと努めた事も此の觀念に外ならなかつた。

氏は非實際的の人であり非社會的の人ではあつたが一面、社會に對する强い興味を有して居たと自ら言はれてゐる。

氏の主なる著書は左の通りである。其の中、Outlines of Psychology, 1903 は曾つて、文學士、風見謙次郎氏に依つて譯出され(『ロイス心理學』)最近には、鈴木半三郎氏の飜譯に依つて『忠義の哲學』が紹介されて居る。

The Religious Aspect of Philosophie. 1885.
California. (in the American Common-wealth series) 1886.
The Freud of Oakfield Greek. 1887.
The Spirit of Modern Philosophy. 1892.
The Conception of God. 1897.
Studies of Good and Evil. 1898.
The World and the Individual: Four Historical Conceptions of Being. 1900.
The Conception of Immortality. 1900.
The World and the Individual; second series: Nature, Man, and the Moral Order. 1901.
Outlines of Psychology. 1903.
Herbert Spencer, an Estimate. 1904.
The Philosophy of Royalty. 1908.
Provincialism, Raise Questions, and other American Problems. 1909
Papers to American Periodicals, philosophical and literary including a mathematical memoir on the Relation of the Principles of Logic to the Foundations of Geometry. 19 5.
William James and other Essays on the Philosophy of Life, 1911.
The Sources of Religious Insight. 1912.

The Problem of Christianity (2 vols), vol. 1, The Christian Doctrine of Life. vol. 2. The Real World and the Christian Ideas. 1913.

○昨年(一九一五)十二月二十八日から三十日迄の三日間米國ペンシルバニア大學で開かれた亞米利加哲學協會の大會には曾つて(一九〇三年)同協會の會頭を務めた事のある、現ハーバード大學教授、ロイス(Royce)氏の滿六十歳に達した(昨年十一月)祝賀會も兼ね催され、同氏の哲學原理其他種々の方面に關する數多の論文が發表されたが其等は本年五月の『哲學評論』(The Philosophical Review. Vol XXV.3 May,1916)に收められて居る。同誌には右の外卷頭に、ロイス氏の寫眞(一九一四、撮影、五十八歳)が掲げられ、それから同氏二十歳の時の寫眞(一八七六年撮影)や、十二月二十九日フィラデルフィアのワルトン、ホテルで催された祝賀會席上に於けるロイス氏の挨拶や、ベンジャミン、ランド氏の編纂にかゝるロイス氏の著書論文其他の解題(凡そ百十七)や、諸家の批評的論文の解題(凡そ三十四)などが載せられて居る。

○近着の "The Journal of Philos ophy, Psychology and scientific Methods に依れば獨逸に於ける Kant Gesellschaft ではかねて募集中の懸賞論文 "Edward von Hartmann's Doctrine of Categories and its significance for Contemporary Philosophy" の閉切期日を、戰爭に基く種々の事情を考慮して、來年(一九一七年)の四月十五日迄延期したと言ふ。そして論文審査員はイエナ大學教授バウフ(Bauch)氏、フライベルヒ大學教授コーン(Cohn)氏、ゲッチンゲン大學教授、ハインリッヒ、マイエル(Heinrich Maier)氏なるべく、賞金は一等千五百マルク、二等、千マルクなりと言ふ事である。

○それから、雜誌『心理學評論』(Psychological Review)出版社から此度新たに『實驗心理學雜誌』(Journal of Experimental Psychology)が二ケ月に一度づゝ發刊される事になり編輯監督はジョンス、ホプキンス大學教授、ジョン、ビー、ワットソン(John B. Watson)氏が司ると言ふ。

彙報

京都帝國大學文科大學哲學科大正五年度講義題目

○正科目

哲學	普通講義	西田教授	二時間	哲學概論
	持殊講義	同	同	ヘーゲルの論理學
	演習	同	同	Fichte, Er Grundlage Der gesamte Wissenscheftslehre
西洋哲學學	普通講義	朝永教授	四時間	西洋哲學史
	特殊講義	同	三時間	フイヒテ以後の哲學

印度哲學	普通講議	松本教授	二時間	印度哲學概論
	同	齋藤講師	三時間	佛教々理概論
	特殊講議	松本教授	二時間	印度佛教史
	演習	同	同	大乘起信論
支那哲學	普通講義	高瀨教授	三時間	支那哲學史
	特殊講義	同	二時間	宋明哲學
	演習	狩野教授	同	禮記
心理學	普通講義	野上助教授	三時間	心理學概論
	特殊講義	同	一時間	心理學輓近の傾向
	同	千葉講師	同	意識の問題
	演習	野上助教授	二時間	心身相關論 (Cannon, Bodily Changes in Pain, Hunger, Fear and Rage.
	實習	野上助教授	二時間	
	講讀	千葉講師	二時間	Wundt, Grundriss der Bycholologie.
倫理學	普通講義	藤井教授	三時間	一般倫理學
	特殊講義	同	二時間	社會的、道德的制度としての族制、
	演習	同	二時間	Green, Prolegomena to Ethics
教育學	普通講義	小西教授	二時間	教育概論
	特殊講義			中學教育發達史
	演習			西洋教育雜誌
	講讀			
美學美術史	普通講義	深田教授	二時間	美學概論
	同	同	同	西洋美術史概說
宗教學	普通講義	松本教授	二時間	宗教學概論
	特殊講義	日野講師	同	經典論
	同	薗田講師	三時間	鎌倉時代佛教史傳
	演習	松本教授	二時間	Kant, Die Religion innerhalb der Grenzen des blossen Vernunft.
社會學	普通講義	米田講師	二時間	純正社會學概論
	特殊講義	同	同	タールド、デュルケム及ジムメルの社會學
	演習	同	同	社會生活と人格の發達 Durkheim, De la division de travail social. 文化の發展 Wundt, Elemente der Völkerpsychologie.

講讀	同	一時間	Keller, Social Evolution.Giddings, Pvinciples of Sociology.

○副科目

英語	島助教授	三時間	Lodge, Reason and Belief. Atlantic monthly; Modern Novels.
同	ロムバード	同	
獨逸語	成瀨講師	(甲)二時間 (乙)同	青木、獨逸語教材、卷一 Die deutsche Geistim Spiegel des Weltkrieges.
佛語	オリアンチス	(甲)二時間 (乙)同	Choix de Lectures Françaises Cours Elèmentaire. Cours Complet de Langue de Française. Cours Elementaire.Choix de Lectues Francaises.Cour ssupérieur.
希臘語	新村教授	一時間	
佛教講義	熱田講師	(甲)二時間 (乙)同	
生理學	石川教授(醫科)	二時間	
教育行政	織田教授(法科)	二時間	

心理叢書の發刊

心理學研究會にては松本博士主唱の下に大略左の如き規約を設けて心理叢書を發刊する由。因みにその第一册は十一月一日發行桑田文學士の「靈魂の信仰と祖先崇拜」と決定せりと。

『心理叢書』刊行會規約(摘要)

一、本會は日本に於ける心理學上の獨創的研究を集成するために、『心理叢書』を刊行するを目的とす

二、本會の目的を贊成するものは何人にても會員となることを得

三、本會の會員たらんと欲するものは住所氏名を明記し、入會希望の旨を書添へ、東京帝國大學心理學教室內增田惟茂宛申込むべし

四、心理叢書は每册四六版約二百頁內外とし、年二册乃至四册を發刊し之を會員に配布す

五、會員は叢書の發刊每に出版實費として金五拾錢內外の會費を前納するものとす(會費額は叢書の發刊每に會員に通知す)

八、本會の事務は之を心理學研究會出版部に委托す

新著紹介

科學の價値

アンリ・ポアンカレ著　文學士　田邊　元譯

科學の價値を論ずるのは自然科學にとつて最後の問題である。然し哲學にとつてはそれが最後の問題であるかどうか。カントの哲學の第一の問題は如何にして純粹數學が可能なりやといふこと